

「困難な課題を抱える世帯の実態調査」結果

令和4年11月

福島県

保健福祉部社会福祉課

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果の詳細	2
	・問1 相談内容（分野）	
	・問2 ひきこもり状態やその疑いがある世帯の有無	
	・問3 ひきこもり状態やその疑いがある世帯の詳細	
	・問4 ひきこもり状態やその疑いがある世帯への対応	
	・問5 ひきこもり状態の方への支援策	
	・問6 複合的な課題を抱える世帯の有無	
	・問7 複合的な課題の内容	
	・問8 複合的な課題を抱える世帯への対応	
	・問9 「制度の狭間」にある困りごとを抱える世帯の有無	
	・問10 「制度の狭間」にある困りごとの内容	
	・問11 「制度の狭間」にある困りごとを抱える世帯への対応	
3	資料	17
	「困難な課題を抱える世帯の実態調査」調査票	

1 調査の概要

(1) 調査目的

昨今の人口減少、少子高齢化の進行などによる社会環境の変化、生活環境の多様化等により、地域住民の抱える生活課題は複合化・複雑化しているため、8050問題や社会的孤立、ダブルケア等、地域に潜在する様々な課題の実態を把握することにより、地域共生社会の実現に向けて、今後の施策や事業内容に反映させるための基礎資料とすることを目的としたものであり、県内の民生委員・児童委員の協力のもと実施した。

(2) 調査対象地域

福島県全域

(3) 調査対象

県内の民生委員・児童委員

(4) 調査の基準

令和4年6月1日現在

(5) 調査時期

令和4年6月～7月

(6) 調査方法

市町村等を通じた調査票の配布及び回収

(7) 配布数及び回収結果

配布数：4,751名

回収数：3,206名

回収率：67.5%

2 調査結果の詳細

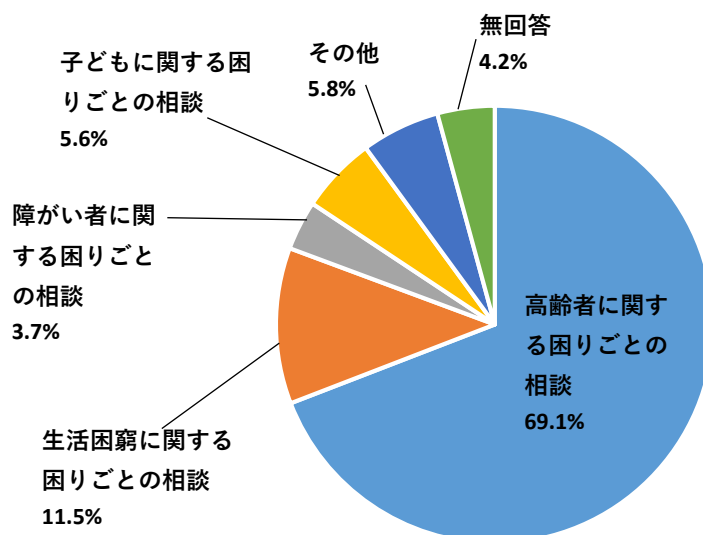
※複数回答ではない問いにも複数回答が見られたが、回答のまま集計している。

問1 これまでに受けた困りごとに関する相談の中で、どのような相談が多いと感じますか。

最も多いと感じるもの1つを○で囲んでください。

- ① 高齢者に関する困りごとの相談（医療、介護、日常生活など）
- ② 生活困窮に関する困りごとの相談（生活保護、失業、多重債務など）
- ③ 障がい者（児）に関する困りごとの相談（生活、就労、医療など）
- ④ 子どもに関する困りごとの相談（妊娠・出産・育児、不登校、非行など）
- ⑤ その他（ ）

問1	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
回答	2,500	417	132	204	210	153	3,616



<結果>

これまで受けた相談内容については、「高齢者に関する困りごとの相談（医療、介護、日常生活など）」が7割近くを占め、次いで「生活困窮に関する困りごとの相談（生活保護、失業、多重債務など）」（11.5%）、「子どもに関する困りごとの相談（妊娠・出産・育児、不登校、非行など）」（5.6%）、「障がい者（児）に関する困りごとの相談（生活、就労、医療など）」（3.7%）の順となっている。

「その他」（5.8%）の主な内容は以下のとおり。

- ・相談を受けたことがない
- ・近所付き合い、近隣トラブル
- ・家庭内のトラブル
- ・ひとり暮らしに関する不安
- ・除雪に関する相談

問2 担当地区に、ひきこもり状態やその疑いがある方のいる世帯はありますか。

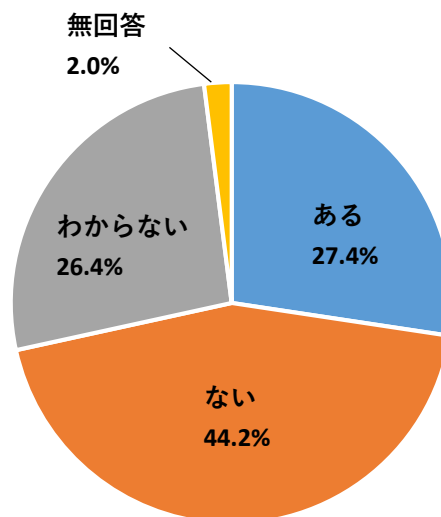
注1

注1) 「ひきこもり」とは、15歳から64歳までの者で、仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人の交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態のこととします。(家族以外との交流はないが時々買い物などで外出する方を含む)

いずれか該当する項目を○で囲んでください。

- ① ある → 「問3」へお進みください。
- ② ない → 「問5」へお進みください。
- ③ わからない → 「問5」へお進みください。

問2	①	②	③	無回答	合計
回答	914	1,475	882	67	3,338



<結果>

回収した3,206人のうち、担当地区にひきこもり状態やその疑いがある方のいる世帯が「ある」と回答したのは914人(27.4%)。また、ひきこもりの該当者は1,327人(問3より)であり、「ある」と回答した方は1人当たり約1.5人を把握していることとなる。

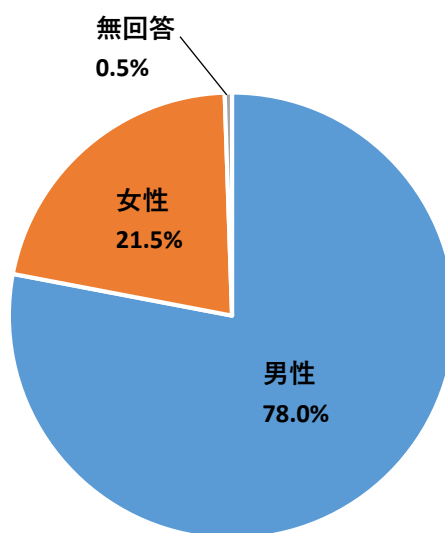
問3 「問2」で「① ある」と答えた方にお聞きます。
 その方や世帯の状況について、わかる範囲でお答えください。

※ 明確にわからない場合は推察での回答、または「わからない」を選択ください。

A 性別	B 年齢	C 同居 家族	D ひきこもりの 状況	E ひきこもりの 期間	F ひきこもりに至った経 緯
			ア 自宅にひきこもっている イ 時々買い物程度の外出はある ウ わからない	ア 1年未満 イ 1～3年未満 ウ 3～5年未満 エ 5～10年未満 オ 10年以上 カ わからない	ア 不登校 イ 就職できなかった ウ 仕事でのつまづき エ 家族や家庭環境の問題 オ 疾病・性格など本人の問題 カ わからない

【問3 A ひきこもりの性別について】

A性別	男性	女性	無回答	合計
回答	1,035	285	7	1,327

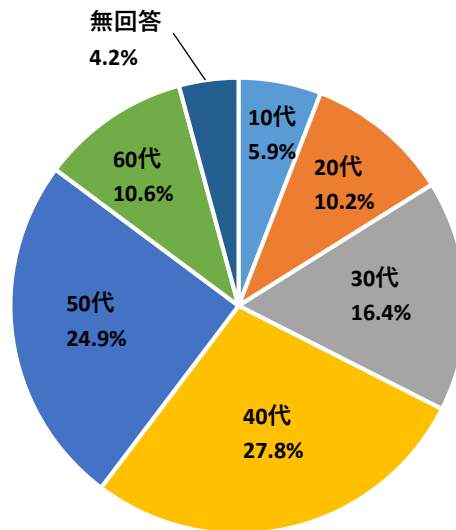


<結果>

ひきこもり状態の該当者について、性別は男性が約8割（78.0%）、女性が約2割（21.5%）となり、男性が女性の4倍近い比率となっている。

【問3B ひきこもりの年齢について】

問3B	10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	合計
回答	78	136	218	370	331	141	56	1,330

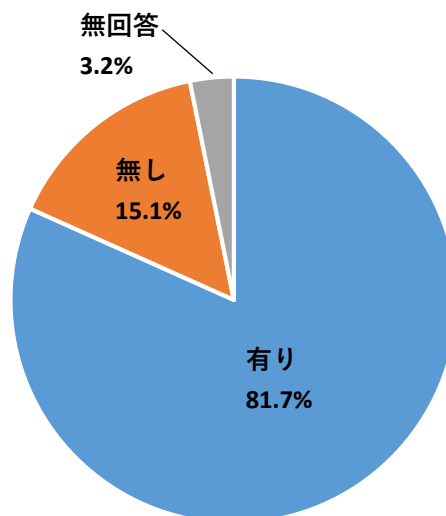


<結果>

該当者の年齢について、40歳代（27.8%）が最も多く、次いで50歳代（24.9%）となり、40歳代と50歳代で半数を占めている。また、「10歳代から30歳代まで」が約3割であるのに対し、「40歳代から60歳代」で約6割となっている。

【問3C ひきこもりの同居家族について】

問3C	有	無	無回答	合計
回答	1,085	201	42	1,328



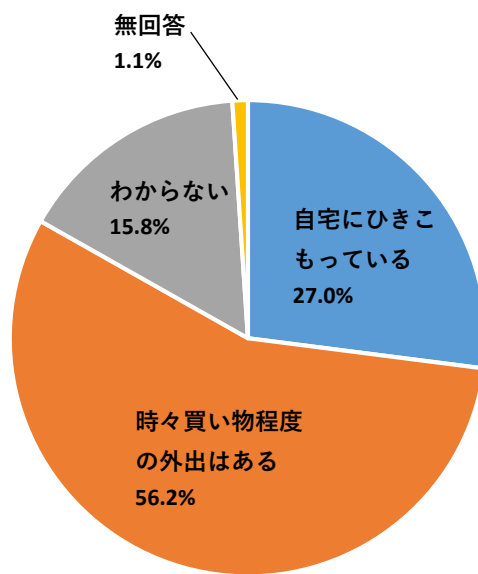
<結果>

同居家族の有無は、「有り」が8割以上（81.7%）となり、「無し」（15.1%）を大きく上回っている。

【問3D ひきこもりの状況】

- ア 自宅にひきこもっている
- イ 時々買い物程度の外出はある
- ウ わからない

問3D	ア	イ	ウ	無回答	合計
回答	360	748	210	14	1,332



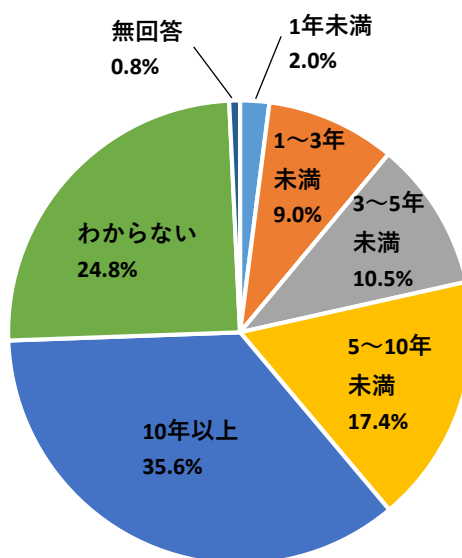
<結果>

ひきこもりの状況は、「時々買い物程度の外出はある」が半数以上（56.2%）となり、「自宅にひきこもっている」は27.0%、「わからない」は15.8%となった。

【問3Eひきこもりの期間】

- ア 1年未満
- イ 1～3年未満
- ウ 3～5年未満
- エ 5～10年未満
- オ 10年以上
- カ わからない

問3E	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	無回答	合計
回答	27	120	139	231	473	330	10	1,330



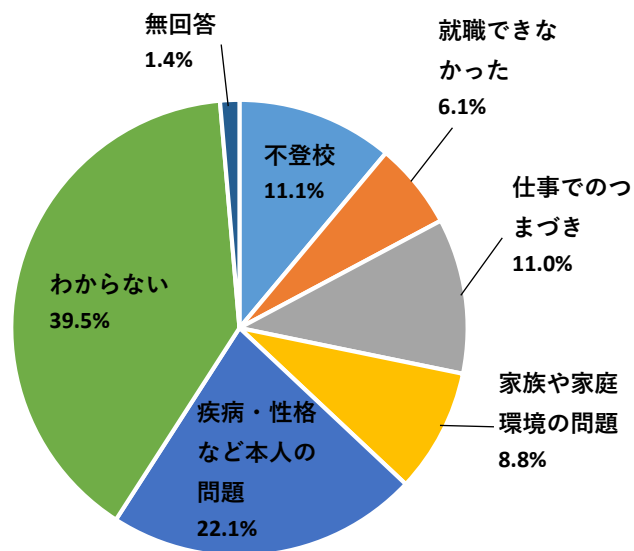
<結果>

ひきこもりの期間は「10年以上」が35.6%で最も多く、全体で見ると5年以上が半数以上を占めている。

【問3Fひきこもりに至った経緯】

- ア 不登校
- イ 就職できなかった
- ウ 仕事でのつまづき
- エ 家族や家庭環境の問題
- オ 疾病・性格など本人の問題
- カ わからない

問3F	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	無回答	合計
回答	154	85	153	122	307	549	19	1,389



<結果>

ひきこもりに至った経緯は、約4割が「わからない」（39.5%）となり、わかる者では「疾病・性格など本人の問題」（22.1%）が最も多く、次いで「不登校」（11.1%）、「仕事でのつまづき」（11.0%）、「家族や家庭環境の問題」（8.8%）、「就職できなかった」（6.1%）の順となっている。

問4 「問2」で「① ある」と答えた方にお聞きします。

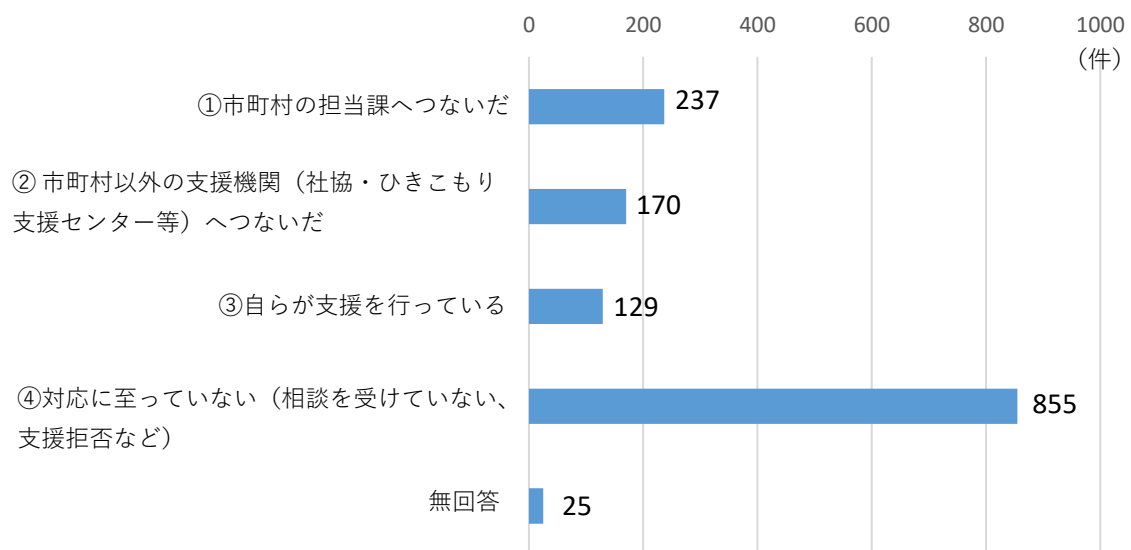
ひきこもり状態やその疑いがある方のいる世帯に対し、どのような対応を
しましたか。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- | | | | |
|---|-------------------------------------|-------|---|
| ① | 市町村の担当課へつないだ | _____ | 件 |
| ② | ①以外の支援機関（社会福祉協議会、ひきこもり支援センター等）へつないだ | _____ | 件 |
| ③ | 自らが支援を行っている | _____ | 件 |
| ④ | 対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など） | _____ | 件 |

問4	①	②	③	④	無回答	合計
回答	237	170	129	855	25	1,416

※複数回答



<結果>

ひきこもり状態やその疑いがある方のいる世帯への対応としては、「対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など）」（855件）が最も多く、次いで「市町村の担当課へつないだ」（237件）、「市町村以外の支援機関（社会福祉協議会、ひきこもり支援センター等）へつないだ」（170件）、「自らが支援を行っている」（129件）の順となっている。

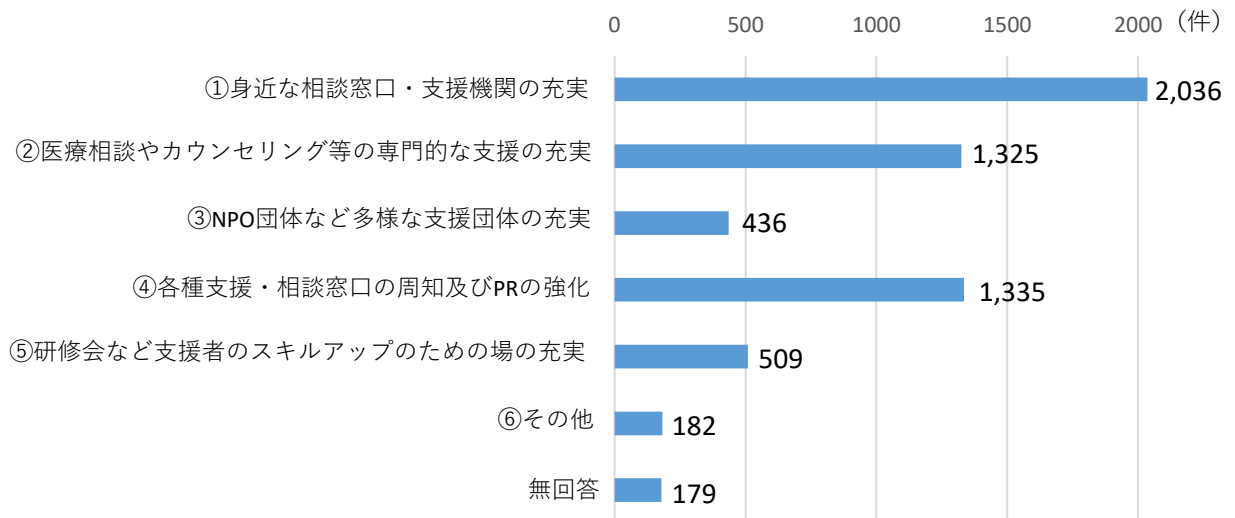
問5 受け持ちの地域のことにかかわらず、ひきこもり状態の方への支援策として、必要だと思われることをお答えください。

該当する項目を○で囲んでください。（複数選択可）

- ① 身近な相談窓口・支援機関の充実
- ② 医療相談やカウンセリング等の専門的な支援の充実
- ③ NPO団体など多様な支援団体の充実
- ④ 各種支援・相談窓口の周知及びPRの強化
- ⑤ 研修会など支援者のスキルアップのための場の充実
- ⑥ その他（ ）

問5	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	合計
回答	2,036	1,325	436	1,335	509	182	179	6,002

※複数回答



<結果>

ひきこもり状態の方への必要な支援策として、「身近な相談窓口・支援機関の充実」（2,036件）が最も多く、次いで「各種支援・相談窓口の周知及びPRの強化」（1,335件）と「医療相談やカウンセリング等の専門的な支援の充実」（1,325件）がほぼ同数となり、「研修会など支援者のスキルアップのための場の充実」（509件）、「NPO団体など多様な支援団体の充実」（436件）の順となっている。

「その他」（182件）の主な内容は以下のとおり。

- ・ 家族（親）への支援
- ・ 家族からの相談がない、支援拒否の場合の対策
- ・ 地域、近隣とのつながり

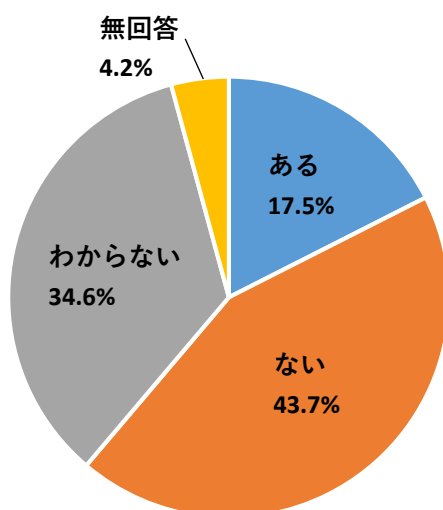
問6 担当地区に、複合的な課題を抱える世帯（ひとつの世帯で複数の分野に
注2
 またがる課題・困りごとを抱える世帯）はありますか。

注2) 「複合的な課題」については「問7」に例示しています。

いずれか該当する項目を○で囲んでください。

- ① ある → 「問7」へお進みください。
- ② ない → 「問9」へお進みください。
- ③ わからない → 「問9」へお進みください。

問6	①	②	③	無回答	合計
回答	585	1,457	1,154	141	3,337



<結果>

複合的な課題を抱える世帯が「ある」という回答は2割を下回り（17.5%）、
 「ない」（43.7%）と「わからない」（34.6%）は合わせて8割近くとなっている。

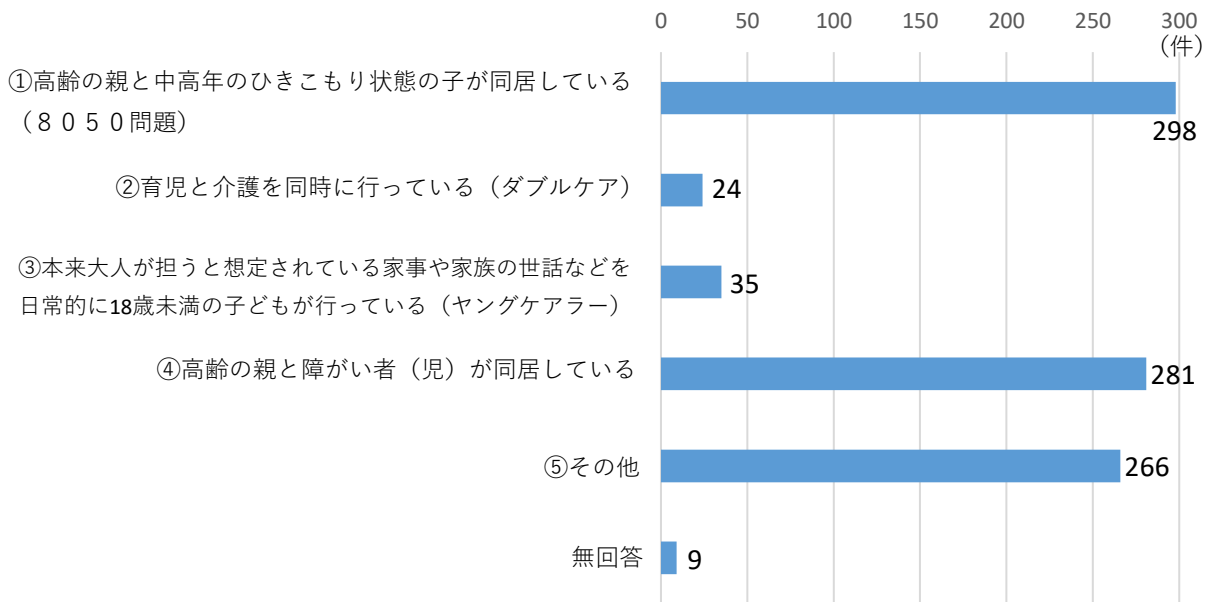
問7 「問6」で「① ある」と答えた方にお聞きします。
複合的な課題の内容についてお答えください。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- ① 高齢の親と中高年のひきこもり状態の子が同居している（8050問題）
※「問4」での回答件数も含めて回答ください。 _____ 件
- ② 育児と介護を同時に行っている（ダブルケア） _____ 件
- ③ 本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に18歳未満の子どもが行っている（ヤングケアラー） _____ 件
- ④ 高齢の親と障がい者（児）が同居している _____ 件
- ⑤ その他（ _____ ） _____ 件

問7	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
回答	298	24	35	281	266	9	913

※複数回答



<結果>

複合的な課題については913件が把握され、内容については、「高齢の親と中高年のひきこもり状態の子が同居している（8050問題）」（298件）が最も多く、次いで「高齢の親と障がい者（児）が同居している」（281件）、「その他」（266件）が多くなっている。

「その他」（266件）の主な内容は以下のとおり。

- ・ 老々介護
- ・ 高齢（障がい・病気）と生活困窮
- ・ 障がい者のみが同居している世帯
- ・ ひきこもりと高齢（障がい・病気）

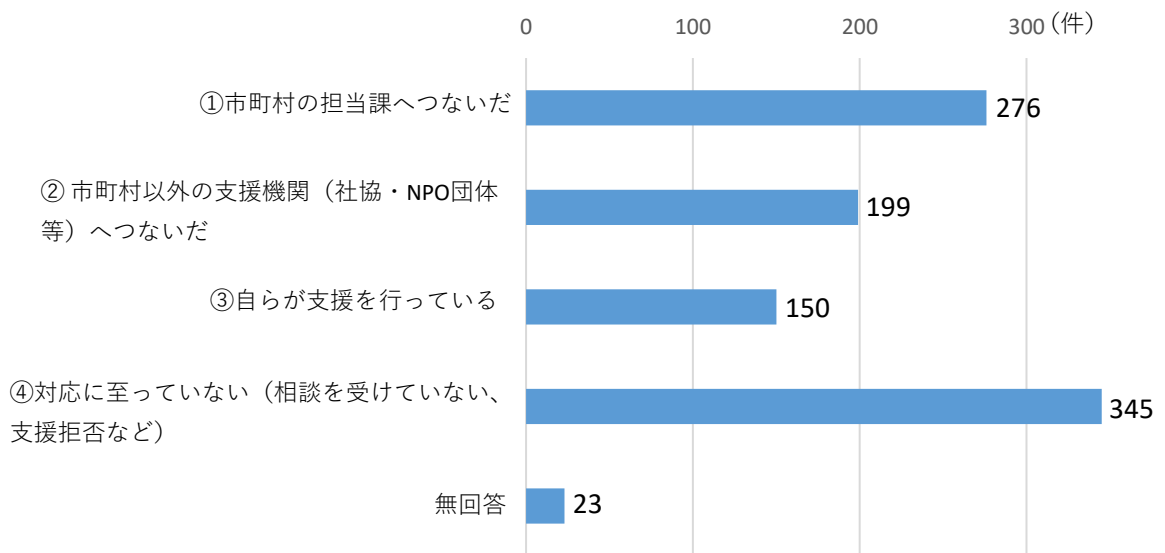
問8 「問6」で「① ある」と答えた方にお聞きします。
複合的な課題を抱える世帯に対し、どのような対応をしましたか。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- | | | | |
|---|-------------------------------|-------|---|
| ① | 市町村の担当課へつないだ | _____ | 件 |
| ② | ①以外の支援機関（社会福祉協議会、NPO団体等）へつないだ | _____ | 件 |
| ③ | 自らが支援を行っている | _____ | 件 |
| ④ | 対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など） | _____ | 件 |

問8	①	②	③	④	無回答	合計
回答	276	199	150	345	23	993

※複数回答



<結果>

複合的な課題を抱える世帯への対応としては、「対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など）」（345件）が最も多く、次いで「市町村の担当課へつないだ」（276件）、「市町村以外の支援機関（社会福祉協議会、NPO団体等）へつないだ」（199件）、「自らが支援を行っている」（150件）の順となっている。

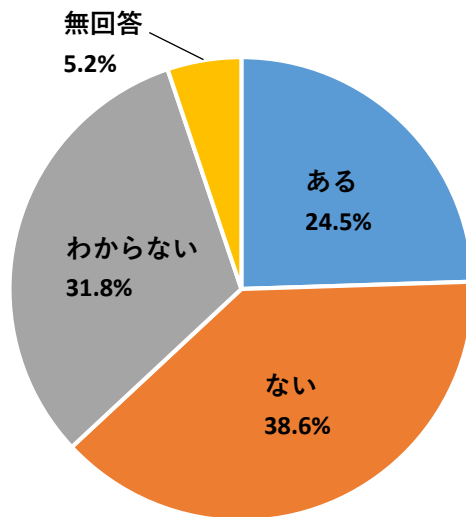
問9 担当地区で、いわゆる「制度の狭間」にある困りごと（注3 現行の福祉制度では十分に対応できない課題など）を抱える世帯はありますか。

注3) 「制度の狭間」にある困りごとについては「問10」に例示しています。

いずれか該当する項目を○で囲んでください。

- ① ある → 「問10」へお進みください。
- ② ない → 「問12」へお進みください。
- ③ わからない → 「問12」へお進みください。

問9	①	②	③	無回答	合計
回答	817	1,286	1,060	172	3,335



<結果>

「制度の狭間」にある困りごとを抱える世帯が「ある」という回答は全体の24.5%となり、「ない」（38.6%）「わからない」（31.8%）は合わせて約7割となっている。

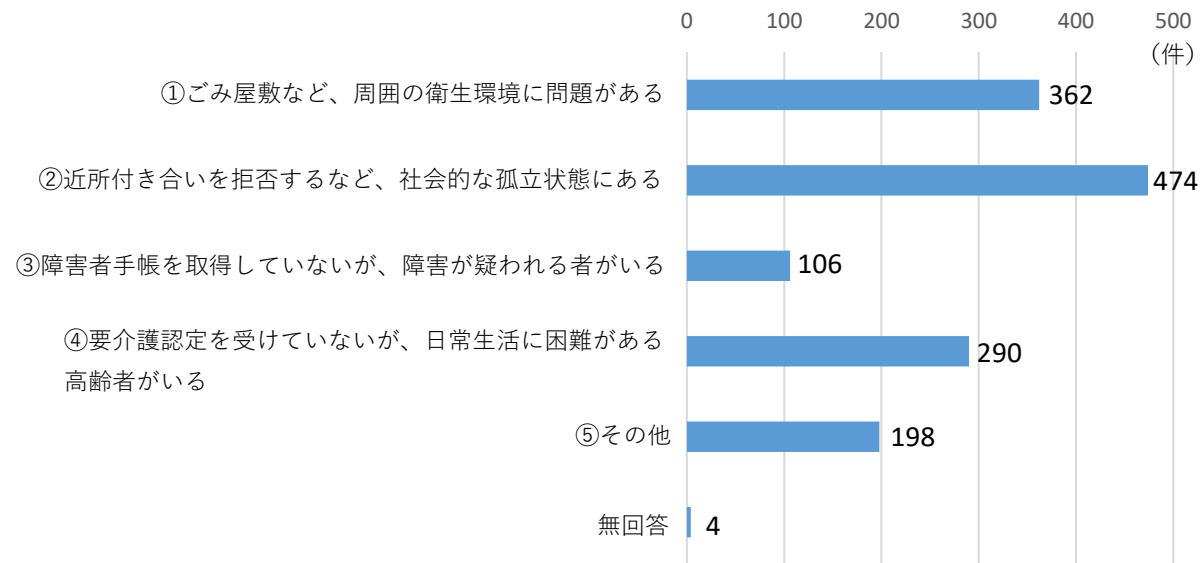
問10 「問9」で「① ある」と答えた方にお聞きします。
「制度の狭間」にある困りごとの内容について、回答ください。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- ① ごみ屋敷など、周囲の衛生環境に問題がある _____ 件
- ② 近所付き合いを拒否するなど、社会的な孤立状態にある _____ 件
- ③ 障害者手帳を取得していないが、障害が疑われる者がいる _____ 件
- ④ 要介護認定を受けていないが、日常生活に困難がある高齢者がいる _____ 件
- ⑤ その他 (_____) _____ 件

問10	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
回答	362	474	106	290	198	4	1,434

※複数回答



<結果>

「制度の狭間」にある困りごとについては、1,434件が把握され、内容としては、「近所付き合いを拒否するなど、社会的な孤立状態にある」(474件)が最も多く、次いで「ごみ屋敷など、周囲の衛生環境に問題がある」(362件)、「要介護認定を受けていないが、日常生活に困難がある高齢者がいる」(290件)、「障害者手帳を取得していないが、障害が疑われる者がいる」(106件)の順となった。

「その他」(198件)の主な内容は以下のとおり。

- ・ 空き家に関する問題
- ・ 近隣トラブル
- ・ 動物の多頭飼い

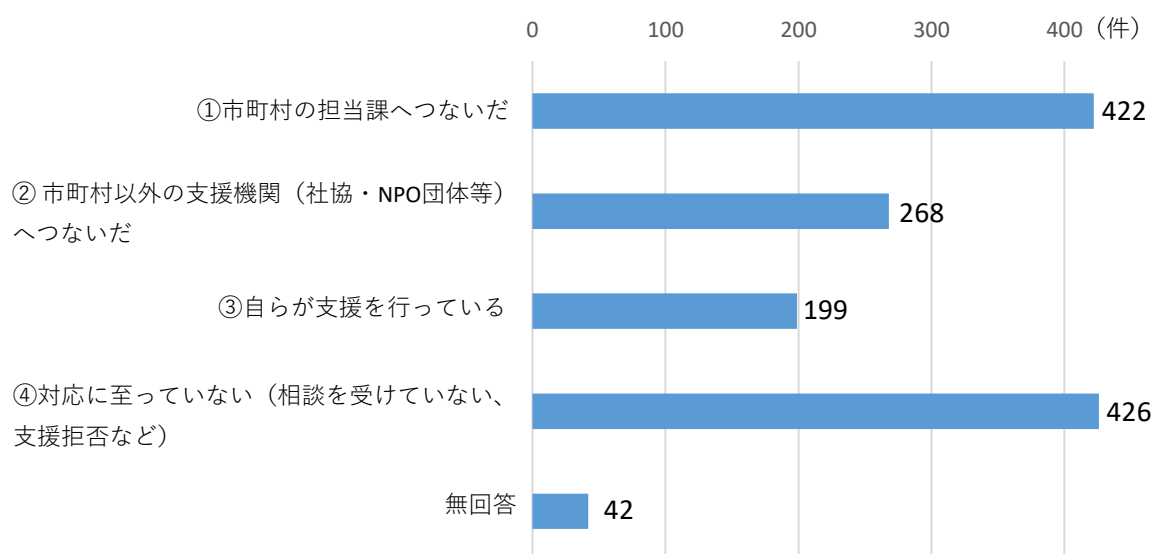
問11 「問9」で「① ある」と答えた方にお聞きします。
 制度の狭間にある困りごとを抱える世帯に対し、どのような対応をしましたか。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- | | | | |
|---|-------------------------------|-------|---|
| ① | 市町村の担当課へつないだ | _____ | 件 |
| ② | ①以外の支援機関（社会福祉協議会、NPO団体等）へつないだ | _____ | 件 |
| ③ | 自らが支援を行っている | _____ | 件 |
| ④ | 対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など） | _____ | 件 |

問11	①	②	③	④	無回答	合計
回答	422	268	199	426	42	1,357

※複数回答



<結果>

「制度の狭間」にある困りごとを抱える世帯への対応としては、「対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など）」（426件）と「市町村の担当課へつないだ」（422件）がほぼ同数で最も多く、次いで「市町村以外の支援機関（社会福祉協議会、NPO団体等）へつないだ」（268件）、「自らが支援を行っている」（199件）の順となっている。

問3 「問2」で「① ある」と答えた方にお聞きします。

その方や世帯の状況について、わかる範囲でお答えください。

※ 1世帯に2人以上おられる場合も、1人につき1行お使いください。またその場合、同一世帯であることがわかるように余白に記載してください。

※ 明確にわからない場合は推察での回答、または「わからない」を選択ください。

	A 性別	B 年齢	C 同居 家族	D ひきこもりの 状況	E ひきこもりの 期間	F ひきこもりに至った 経緯
				ア 自宅にひきこもっている イ 時々買い物程度の外出はある ウ わからない	ア 1年未満 イ 1～3年未満 ウ 3～5年未満 エ 5～10年未満 オ 10年以上 カ わからない	ア 不登校 イ 就職できなかった ウ 仕事でのつまづき エ 家族や家庭環境の問題 オ 疾病・性格など本人の問題 カ わからない
例	男・女	(50)歳代	有・無	ア ①・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・①・ウ・ エ・オ・カ
1	男・女	()歳代	有・無	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ
2	男・女	()歳代	有・無	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ
3	男・女	()歳代	有・無	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ
4	男・女	()歳代	有・無	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ
5	男・女	()歳代	有・無	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ
6	男・女	()歳代	有・無	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ	ア・イ・ウ・ エ・オ・カ

問4 「問2」で「① ある」と答えた方にお聞きします。

ひきこもり状態やその疑いがある方のいる世帯に対し、どのような対応をしましたか。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| ① 市町村の担当課へつないだ | _____ 件 |
| ② ①以外の支援機関（社会福祉協議会、ひきこもり支援センター等）へつないだ | _____ 件 |
| ③ 自らが支援を行っている | _____ 件 |
| ④ 対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など） | _____ 件 |

問9 担当地区で、いわゆる「制度の狭間」にある困りごと（現行の福祉制度で注3は十分に対応できない課題など）を抱える世帯はありますか。

注3) 「制度の狭間」にある困りごとについては「問10」に例示しています。

いずれか該当する項目を○で囲んでください。

- ① ある → 「問10」へお進みください。
- ② ない → 「問12」へお進みください。
- ③ わからない → 「問12」へお進みください。

問10 「問9」で「① ある」と答えた方にお聞きします。
「制度の狭間」にある困りごとの内容について、回答ください。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- ① ごみ屋敷など、周囲の衛生環境に問題がある _____ 件
- ② 近所付き合いを拒否するなど、社会的な孤立状態にある _____ 件
- ③ 障害者手帳を取得していないが、障害が疑われる者がいる _____ 件
- ④ 要介護認定を受けていないが、日常生活に困難がある高齢者がいる _____ 件
- ⑤ その他 (_____) _____ 件

問11 「問9」で「① ある」と答えた方にお聞きします。
制度の狭間にある困りごとを抱える世帯に対し、どのような対応をされましたか。

該当する項目の全てに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

- ① 市町村の担当課へつないだ _____ 件
- ② ①以外の支援機関（社会福祉協議会、NPO団体等）へつないだ _____ 件
- ③ 自らが支援を行っている _____ 件
- ④ 対応に至っていない（相談を受けていない、支援拒否など） _____ 件

問12 その他、困難な課題を抱える世帯に関して、御意見やお気づきの点がございましたら、自由に御記入ください。

以上で調査は終了です。御協力ありがとうございました。

【お知らせ】 6月中に福島県社会福祉課のホームページに各種相談窓口の一覧を掲載予定ですので、今後の活動時にお役立ていただければ幸いです。